

発行日：平成29年10月17日

発行者：今村証券株式会社

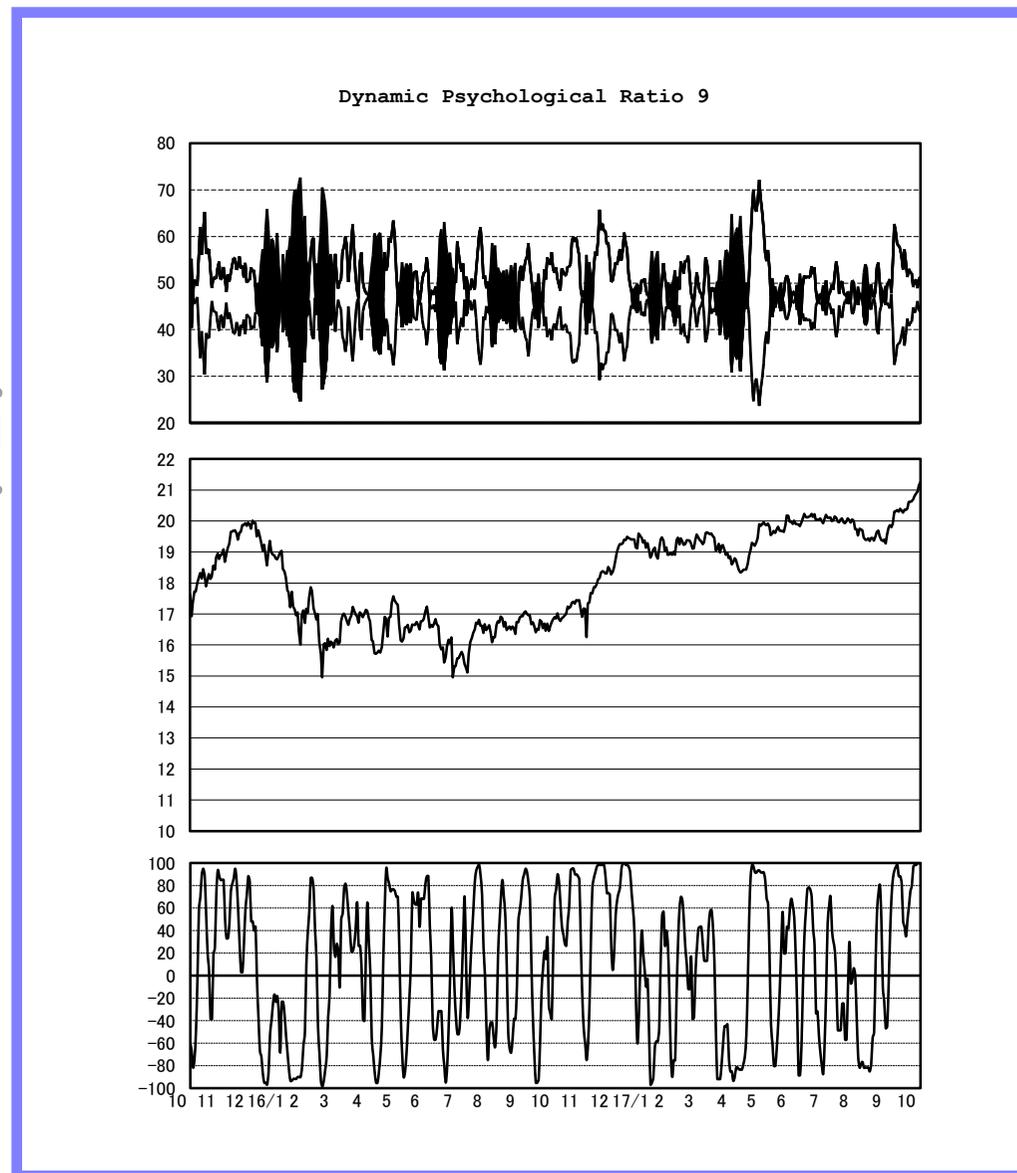
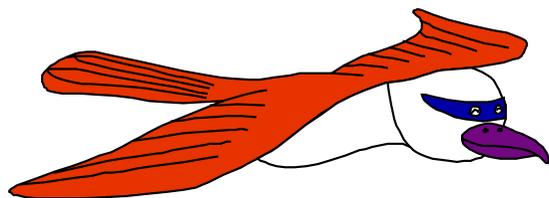
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者：営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第607号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、
-80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大所高所

日本株は過去 25 年間の高値 96 年 6 月 26 日の 22,666 円に迫ってきた。これまで何度も P E R や P B R、配当利回りなど、縦から見ても横から見ても、上から見ても下から見ても日本株は安すぎると言い続けて来た。ようやくその修正場面が始まったということだ。株価は絶対的な基準に因って決定するものではない。世界の株価水準と比較され、相対的に決まるものなのだ。世界の主要国（お隣の韓国でさえも）が軒並みに史上最高値を更新している中で、日本株のみが 1989 年末の最高値の半分程度にいたということ自体が不自然でもあったのだ。

ではなぜ日本株だけが安値に放置されていたのか。日本株は 1990 年初頭の急落から延々 23 年間も、2 万円近辺の壁に跳ね返されること 6 度余り、安倍政権が始まり、大局的な上昇に転じてなお、2 度 3 度と 2 万円の壁に跳ね返された。この間、尤もらしく人口減など将来への悲観が強かったからなどと言ってはいるが、実は 2 万円近辺で売れば儲かるという経験則が余りにも強烈だったことが主因だった。構造的な不況に喘ぐ金融機関が決算対策の利食い売りを出して上昇を抑えてもいた。しかしここに来て、年内 23,000 円説も出てきた。もしそれが実現するなら、そこから上はほぼ真空地帯。1 ~ 2 年間で 4 万円辺りまで急伸してもおかしくはない。

(B I S)

ただ一筋

日経平均株価は今年最長の10日連続の年初来高値更新、まさに「もうはまだなり」の勢いである。世界的な景気回復を背景に今期企業業績への期待に加え、衆院選情勢も「与党の大敗は無い」から「過半数を大きく上回る」との見方となり、投資家心理も改善しているようだ。先月中旬から買い越し基調の海外投資家は10月第一週も日本株の現物を2週連続で買い越しており、今後の買いに弾みがつく可能性がある。ただ、18日中国共産党大会開幕に合わせた北朝鮮の動向や22日の選挙結果、米減税案の行方等々、注意を要する事案も多く、利益確定売りを優先させる国内投資家も大勢存在する。

このような状況下、物色動向に変化が見られることには注意を要する。先物市場での買い戻しが頻繁に実行されることで、日経平均株価に大きな影響を与える大型株や超値嵩株に人気が集中し、市場をかく乱しているのは気がかりである。一方、個人投資家中心に物色意欲を高めてきたマザーズ市場やジャスダック市場の中小型株には利益確定の売りに押され急落する銘柄も増えていることでまだ疑心暗鬼の投資家も多いのではないだろうか。

ここでの投資姿勢としては基本強気姿勢を堅持し、好業績、高成長期待の半導体関連株やEV自動車・自動運転関連株などの下押し場面を待つか、衆院選後の予算政策を想定して橋梁株中心の建設株や防衛関連株にも注目するなど、ゾーンを広げながら相場の動きに追随する姿勢が望ましい。

(三感王)

当たり屋見参

先週の東京株式市場で日経平均株価は21年ぶりの高値である21,000円台を回復した。衆院選の世論調査で与党優勢と伝わったことで、現行のアベノミクスからの更なる経済対策の期待が投資家の中で広がっているようだ。また、円相場も安定しており、輸出企業などを中心とした業績への期待も株価を押し上げる要因となっているようだ。

今後も日経平均株価は、堅調な動きが続くと予想している。週末に行われる衆議院選挙を受けての政策期待や、今後本格化する日米企業の決算発表が良い内容となれば、さらに株価は押し上げられることになるだろう。

個別銘柄としては、ユニバーサルエンターテインメント(6425)に注目している。同社はパチスロ機を軸にした総合アミューズメント会社である。昨年12月にフィリピンで開業したカジノが順調であることから、今後期待されているカジノ関連銘柄において、数少ない実績をあげている会社の一つだ。今後カジノ関連銘柄をリードしていこうと予想している。

(腹)

中 堅 の 視 座

「量子コンピューター」…聞いたことがあるような無いようなこのワードが度々相場を騒がせる。量子力学を応用した計算方法を利用する、ということだが、原理はさておき、どのようなことが可能になるのか。曰く、組み合わせ・最適化の計算速度が従来のスーパーコンピューターの何千万倍、スーパーコンピューターが何万年かかる計算をわずか数時間で処理してしまうそう。従来のコンピューターでは解読できない暗号が破られてしまう可能性、要するに世界の情報が丸裸にされてしまう危険性が出ている、とも言われる。まるで夢物語のようだ。

だが、この量子コンピューターは、その実現に向けて確かに動き出している。まず文部科学省は2018年から10年間に約300億円を投じるという。量子コンピューターを利用することで、創薬・新材料開発などが加速してくるだろう。また、最近注目を浴びているのが、人工知能との掛け合わせだ。膨大なシミュレーションを可能にし、その結果を人工知能が学習・処理する、人工知能は量子コンピューターの実現により爆発的に進化するだろう。

今後も話題が集中すると思われる、NEC (6701)、フィックスターズ (3687) に注目したい。
(小→大)

きらきら星

先月、「東京ゲームショウ 2017」が開催されたが、今回はスポーツのようにゲームの腕を競う「e スポーツ」が目玉だったようだ。「e スポーツ」とは、格闘ゲームやシューティングゲームなどを1対1や複数人同士で対戦する大会を大きな会場で開催し、観客は競技者の「技」を観戦するイベントのこと。海外では、東南アジアや欧州などで大会が活発に開催されているようで、優勝賞金が10億円を超える大会もあるとのことだ。ゲームに縁遠い筆者にとって、娯楽の1つと思っていたゲームが、スポーツとして位置づけられていることに驚愕してしまった。

ある調査会社によると、2017年の世界の「e スポーツ」市場は約770億円とのことだが、日本では景品表示法によって高額賞金の大会を開きづらいうえに、プロの基準も曖昧なため普及が遅れているようだ。なので、ゲームを「競技」と捉える消費者が海外に比べまだまだ少ないのが現状といわれる。今回のゲームショウでは、8社が「e スポーツ」の大会を開催したようだが、これをきっかけに機運を高め、新たな収益の柱に育てたいとの意気込みが感じられた。主なところでは、セガサミーホールディングス(6460)、コナミホールディングス(9766)、ソニー(6758)、カプコン(9697)。

(K ^)

アナログの俯瞰

近年の日経平均上昇の特徴として、超値嵩株への偏重がある。低位大型株中心の上げではなく、値嵩株による指数の安易な押上げだ。これに関して是非を問うつもりはないが、相場の中身の歪みは否めない。21年ぶりの高値という日経平均、個々に株価を遡ってみると、値嵩株の上昇が突出しており、低位大型株はほとんどが21年前の株価に到達していない。単純に値嵩株には過熱感、割高感があり、低位大型株には出遅れ感、割安感があることになる。なら、出遅れ株を買うことが、リスク的にもパフォーマンス的にも最良の投資対象となりそうだが、これまでの相場を見る限り、一概にはそうとも言い切れない。逆に、値嵩株を見ると、大半が常に日経平均のパフォーマンスを上回っているように見える。どちらに投資するかは人それぞれだが、相場に乗ってる感を味わうには後者がやや優位か。

半面、衆議院議員選挙真っ只中、利食いしながら買いを入れる展開を続ける傍ら、くすぶる北朝鮮リスクを念頭に、防衛関連の石川製作所、豊和工業の動きの意味を考えつつ、Xデーに備える姿勢も必要！？

電子部品で地元の村田製作所(6981)、システム開発でフィックスターズ(3687)、そろそろ出番か？ネットセキュリティのラック(3857)。

(プレステ2・3・4・PSP、任天堂Wii・3DSと揃い踏み、感極まるクレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

＜不二越＞

2017年11月期第3四半期連結決算は増収増益、堅調な世界経済を背景に需要は総じて強含みだ。利益面ではロボット事業を強化すべく人員の拡充や設備投資を行ったことで固定費・販売管理費が増加したが、増収効果に加えて操業度の改善等が奏功した。

堅調な業績を支えるのはロボット事業と油圧機器事業の拡大だ。自動化、省力化に対する企業の設備投資意欲が旺盛な中、殊にロボット需要は好調だ。機械受注統計で産業用ロボットの受注高は1月から8月までの累計で前年同期比4割超の増加となった。国際ロボット連盟では、ロボット需要は2018年から2020年にかけて年平均15%で拡大すると予測しており、ロボット事業は今後も好調に推移しそうだ。

一方、油圧機器では建設機械向け、自動車向けがともに好調だ。建設機械では欧米で小型建設機械が好調な上、中国も回復している。殊に同社が強みを持つ小型建設機械の需要回復が鮮明だ。自動車向けでも、AT車やCVT車に搭載される部品の需要が増加している。今後も世界的なインフラ投資の拡大を背景に建設機械の需要増加が期待される上、自動車生産も拡大が見込まれる。

株価のバリュエーションはベアリング各社との比較では平均的な水準であるものの、ロボットメーカーとの比較では割安感がある。来期も好業績が期待され、上昇余地がありそうだ。

” 僧 中 線 罫 ”

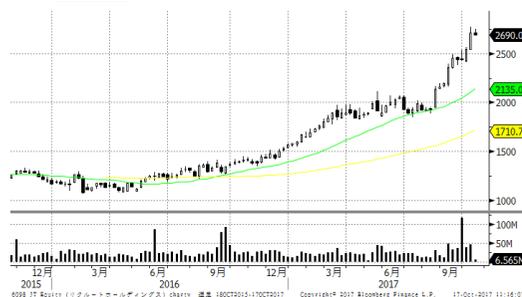
6098 リクルートHD

日経平均株価の10連騰で、2年前の20,868円の高値をあっさり突破。4月～6月の上げ相場の時もそうだったが、今回も8月下旬から9月上旬まで続いた空売り比率の連続40%超えの裏返し相場となってきたようだ（弱気派の買戻し）。ここ1年間の上昇相場を検証すると、昨年11月9日～今年1月5日は38日間、4月17日～6月20日は44日間。現在進行中の相場は9月8日～10月17日で26日目にあたる。あと1カ月程度（11月第2週まで）上昇相場が持続する期待が持てる。以前に今年の日経平均株価の高値は23,000円がありうるとしたが、近づいてきた（4年間の日経平均の変動幅約4,600円+今年の安値18,224円）。

今回は連日新高値を更新中のリクルートHDに注目。最近CMでよく見かける～仕事バイト探しはIndeed（インディード）で知名度が上がってきた求人情報検索エンジンが急成長。上場して2年近くは地味な動きだったが、最近の動きには目を見張る。日経225銘柄にも採用された。

（ICHI）

週足



日足



出所：ブルームバーグ

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。